

■研究主題

主体的に学習に取り組み、やり抜こうとする児童の育成
～思いやり、考える学習活動の工夫を通して～

■目指す児童像

やりぬこうとする児童

■方向性

やり抜こうとする児童に必要な力

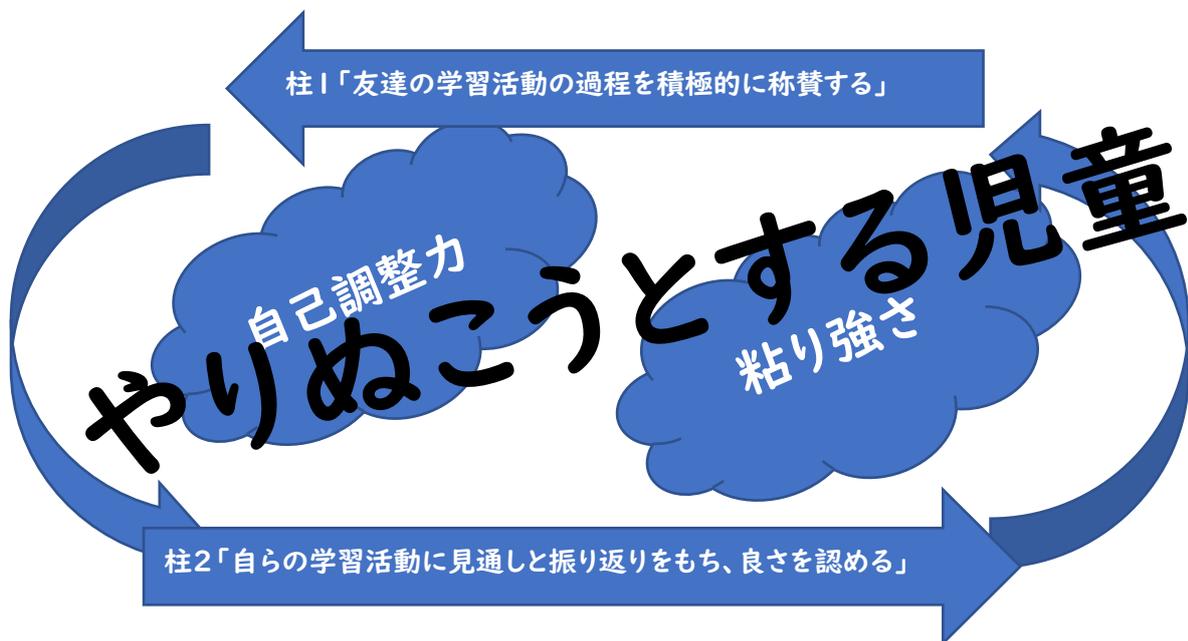
- ① 自己調整力 ② 粘り強さ

焦点を絞った学習活動の展開

柱(1)「友達の学習活動の過程を積極的に称賛する」

柱(2)「自らの学習活動に見通しと振り返りをもち、良さを認める」

■イメージ図



■研究仮説

友達や自分自身の学習活動の良さを積極的に認め合うことで、自らの学びについて自己調整したり粘り強く取り組もうとしたりする主体的な態度が育まれ、やり抜こうとする児童の育成につながるだろう。

■授業づくりのポイント

上記までの理論と仮説に基づき、授業の主な流れについて以下のように提案します。

- ① 本時における「良さ」を伝える。(導入)
- ② 「良さ」を見る目をもたせる。(全体指導)
- ③ 「良さ」に気づき、伝える機会を作る。(グループ活動)
- ④ 「良さ」を振り返る機会を作る。(まとめ)